

会 議 録

会 議 名	令和元年度（2019年度）第3回八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会計画策定（子ども）部会	
日 時	令和元年（2019年）7月2日（火）午後2時00分～2時50分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 第6委員会室	
出席者氏名	委 員	井上仁部会長、荒井容子委員、野中真理子委員、森直美委員、山本由佳理委員（会長、以下五十音順）
	関連所管	
	事務局	澤田子どものしあわせ課長、小野主査、井垣主査、吉岡主査
欠席者氏名	大宝院清孝副部会長、岡崎理香委員、	
議 題	議事 1 次期計画の基本方針1～3に関する施策の検討	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	令和元年（2019年）9月9日 荒井 容子	

(別紙) 配付資料

- 基本方針等の検討資料
- 基本方針1から3の施策における課題

(別紙) 会議の内容

【澤田子どものしあわせ課長】

定刻になりましたので、八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会令和元年度第 3 回計画策定(子ども)部会を開催いたします。委員 7 名中 5 名出席で過半数となりますので、開催要件を満たしております。では井上部会長に進行をお願いします。

【井上部会長】

本日は、基本方針を決めるにあたっての考え方を確認します。分科会としての考え方のベースは、既に示している基本理念「みんなで育てる みんなが育つ わたしたちがミライにつなぐ はちおうじ」であり、「子どもにやさしいまち」を基盤として次世代の若者たちにとっての八王子を考える、ということになります。

現計画の 4 つの方針に関しては、計画の 26 ページに掲載されていますが、次期計画において視点をどう持っていくか、議論をします。ただし、市として今後重点をおくこと、例えば少子化対策はどのように位置付けるか等は検討中ということですので、現段階の案として議論します。

まずは分科会として外せない施策として、「子どもの参画」「子どもの遊びの保障」があります。現計画からのつながりもあるうえ、歴代の子ども意見発表会での子どもたちの意見を踏まえると、「遊びの保障」は入れるべきと考えます。

【事務局】

資料 1 について補足説明しますと、「現行計画」の各基本方針におけるキーワードはそのまま継続し、さらに「次期計画」に記載しているキーワードを新たに含むことを検討しています。子どもたちの「遊び」に関しては、基本方針 1 の「居場所」に位置付けることを考えています。

【井上部会長】

教育には 2 つの面があり、1 つは学校教育であり、もう 1 つは「遊び」が子どもを育てる、ということです。若者施策の中では「余暇」となりますが。子どもたちからの意見も踏まえながら、八王子として「遊び」にどう取り組むか検討が必要です。その先に公園のありかた、自然環境のありかたがあり、計画に落としていくこととなります。

【事務局】

現段階では、基本方針 1 に掲げる「体験」「居場所」の中には、遊びも含めて考えているのですが、言葉として「遊び」を入れるべきであれば検討します。

【井上部会長】

子どもを育てる、ということ、持続可能な社会の中で位置付けなければいけません。そのために、「遊び」に関しても、次期計画では具体的にどう位置付けるか打ち出すべきです。市として、人を育てる「遊び」の必要性や理念を掲げ、所管課を置いて、社会教育や学校教育、健全育成の観点をもった総合支援としてプロモーションを行う。そして、その

ために必要な公園のありかたや環境整備を計画に掲載していく、ということになるかと思えます。プレイパークを行うにしても、このような位置付けがある中で、規則や制度、人材等について考え実施するべきなのですが、この点においては現計画は無策だったと思います。

「子ども☆ミライ会議」においては、小・中学生の頃からの児童館活動を通してユースリーダーが育っていて、人材育成の取組としての結果は出していますが、彼らを育ててきた児童館職員がいなくなったらそこで切れてしまう、そのようなことになるのは良くありません。「遊び」を支える、という考えの中にユースリーダーも位置付けても良いと思います。子どもを育てることについての市としてコンセプトを出し、しっかりと制度化すべきです。

【野中委員】

今の子どもの「遊び」は、危険がないようにという観点から室内遊びが多くなりがちです。「体験」といっても、教室的・イベント的なもので、予め段取りされたものが多いと思います。もっと緩いルールの中で自由に遊べて、失敗も含めて本当の意味での体験ができるような場が、市全体どこに行ってもある、となると、市の魅力につながります。

【井上部会長】

八王子には自然が多く、山も川も畑もあるのに、もったいないですね。われわれ世代では当たり前であったことが、今の子どもたちにとっては当たり前ではないのです。これを打開するにはどうするか、しくみはどうするか、次の5年間で取り組むべき課題であり、次期計画のコンセプトの一つになります。

【森委員】

学校から「今日は汚れても良い服で来てください」という通知を、わざわざもらうこともあり、危険なことや汚いことをさせないという方向性です。これに関しては、親の意向が関わっていると思いますので、親の責任もあります。

【井上部会長】

「遊び」に関して、市としてプロモーションすれば、親の考え方も変わるのではないのでしょうか。はちおうじっ子を育てる、ということについて、市として市民にどう示していくか。「遊び」も社会化するべき、ということであれば、その観点で政策的に考えるべきかもしれません。保育施設と比べると学童保育所に入所できる児童数は少ないため、働いている親の子どもは、小学生になると塾などに行くか鍵っ子になるかで、いずれにしても友だちと遊ぶ時間がなくなり、自分たちだけの世界に入ってしまうのではないのでしょうか。

「遊び」は居場所づくりでもあります。乳幼児期から学童期へと連続して考え、途切れることなく、遊びながら成長し、失敗も含めて学びのあるしくみを社会として考えれば、親は、放課後の遊びにずっと付き合うのは難しいとしても、「汚れて帰ってきていいよ」と思うかもしれません。

【森委員】

一方で、例えば放課後子ども教室は、地域性もあると思いますが、実施日数を増やしても子どもたちの参加が少なく、いつも同じ子どもしか来ないという状況があります。学童保育所も、高学年の児童は行きたがりません。働いている親としては、学童保育所に通うほうが安心ですが、子どもの体も大きくなって窮屈さを感じたり、けんかがあったりなどで、行きたがらない子どもも多いようです。そうすると、親も無理に行くようには言えません。

【井上部会長】

大人の管理下にあることで、子どもたちが自由に遊ぶことができない、という状況もあるのかもしれませんがね。放課後に子どもと関わる方々には、施設があつて安全を管理をしている、というだけではなく、遊びのコンセプトや子どもとの関わり方を理解していただく、そのような人材の育成も必要かと思います。

【野中委員】

放課後子ども教室は、実態としては、学校全体が開放されているわけではなく、決められた教室だけが使用可能となっていて、子どもたちにとって居心地が良い場所かどうかは分かりません。学校の校庭も、学童保育所と放課後子ども教室で、エリアを分けられているようです。

【井上部会長】

同じ社会資源を活用して遊びをどう展開するか、もっと考えなければいけないですね。

あともう一点は、少子化対策です。八王子が魅力あるまちとして捉えられ、八王子で子どもを生み育てたいと思ってもらえるように取り組まなければいけません。待機児童がいても人口が集まっている自治体は、やはり「このまちで育てたい」と思わせるものがあります。八王子は地域ごとに特性があるのであれば、それを生かした保育を展開しても良いですね。八王子に住めば、子どもも育て、親にとってのメリットもある、ということが少子化対策につながります。現計画は待機児童対策はカバーしていますが、少子化対策が盛り込まれていなかったもので、次期計画では盛り込む必要があります。

【野中委員】

せっかく中核市になったのですから、八王子ならではの特色ある何かが求められています。八王子ならできる、という何かがあれば、それは都市の魅力になります。同じ多摩地域なら、町田市、立川市ではなく八王子市に住みたい、と思えるような魅力ある政策が必要です。

【井上部会長】

そのような観点で考えますと、ネウボラ事業は結果を出していますが、それが市民に伝わっていないと感じます。「八王子には、安心して子育てができるしくみがある」「八王子で子育てすれば安心」だと知ってもらわないといけません。

【野中委員】

良いことに取り組んでいても、PR が上手ではないと思います。産後ケア事業は民生委員

の中でも知られていませんでした。民生委員への周知も十分ではなかったですし、ネーミングも硬くて、事業の内容が分かりづらいと感じます。

【井上部会長】

産後ケア事業は、現計画の大きな成果であるネウボラ事業の一つで、素晴らしい結果も出しています。それであるのに、民生委員のみなさんが知らなかったというのは問題ですね。事業開始とともに、すぐに市から民生委員のみなさんに研修すべき内容です。

子ども家庭支援センターでは、ネットワーク会議も開催されていますが、こちらも担当者しか知らないのではないのでしょうか。子育て支援施策全般に、プロモーションが上手ではないと思います。乳幼児期にはアウトリーチを積極的に行うなど子育て支援に力を入れているにも関わらず、市民評価が得られないことは、少子化対策の観点からも良くありません。保健福祉センターも子ども家庭支援センターもプロモーションに関して検討してほしいと思います。

【野中委員】

産後ケア事業については、対象となる保護者の方には情報が届いていますが、これから子育てをするという若い世代には、住むまちを選ぶための要因にはなっていないと思います。

【井上部会長】

近隣の町田市、日野市は、子育て支援施策の取組をPRし、有名になっています。

【森委員】

子どものしあわせ課という意味のある課名も、子どもが通う学校では、知られていませんでした。

【井上部会長】

子どものしあわせ課という課名は、今年大学を卒業し社会に出る年代の子どもたちが、10年前の子ども議会で思いを込めてネーミングしました。この子どもたちの思いにも報いないといけません。子どものしあわせ課の名前をPRすることで、子ども・子育て施策を積極的に推進し、子どもたちの権利を守る自治体である、というプロモーションになり、総合相談にも結びついてきます。自治体として、もっとPRすべき内容がたくさんありますね。

近隣では日野市、西東京市、町田市、さらに立川市も子育て支援施策に力を入れています。少子化対策を柱として、八王子市も存在感を出していける次期計画にしないと、SDGsも意味をなしません。庁内検討会でどのような議論を行っているかを確認し、計画の目玉を打ち出したいと思います。特徴的な保育施策なども良いでしょう。八王子の子育てをブランドとし、妊娠期の方や若い世代に振り向いてもらえうようにしないといけない。八王子には、学童保育所は全小学校区にあり、それが当たり前のように思っていますが、そのような自治体はなかなかありません。そのような取組をPRすべきなのです。若い世代に来てもらうには、大学や企業との連携も必要でしょう。認可部会の皆さんにも、今の話したような考え方のもとで、保育の質を考えてほしいと思います。

また、子どもの安全安心施策に関しては、児童相談所設置の検討だけでなく、市をあげて子どもの安全安心を守るしくみを、計画に明示することが必要です。西東京市等にある相談窓口は、総合的に子どもの問題を受け付けて、検証するしくみがあり、子どもたちにも分かりやすいと思います。メールやラインで24時間相談を受け付け、責任を持って対応する専門家がいるようです。「八王子に来れば守られる」という状況が必要です。その上でさらに、児童虐待対応についてのコンセプトを計画に示す必要があります。

今後また所管課からのヒアリングも通して、次回以降検討を進めます。次回の予定はどうなっていますか。

【事務局】

次回の部会は9月4日（水）に、基本方針4についての検討及び若者部会の進捗の報告を予定しています。

【井上部会長】

では、本日はこれで終了します。お疲れさまでした。